令和３年度東京都公民館連絡協議会委員部会研修会

令和３年 12 月 15 日

日野市公民館

「公民館を育てる仕組み、支える仕組みを考えてみよう」

「新しい公民館を目指して」（三多摩テーゼより）の市民と職員の役割という話が強く心に残りました。

公民館は住民にとっての大学としての役割があり、公民館での学習は、住民自身が住民のために行うものである。学習内容は、住民自身によって編成されるべきであり、職員の役割はそれを援助していくことである。

公民館の主催事業は、実施を通して、参加者に新しいきずな、課題解決の糸口、自己成長を起こさせる講座であるべき。

講座受講後、参加者間に共通認識が芽生え、人づくり、活動団体の結成、居場所づくり、地域づくりまでできるのが望ましい。

職員は地域の実情を把握し、各種団体の支援、公民館活動のためのよりよい環境づくりを行う。

「公民館運営審議会への期待」についても重い提案があった。

公民館運営審議会は、公民館事業の企画、実施についての審議、公民館長の諮問に応じるという受け身の活動から、公民館に市民の代表として市民目線から積極的に関与し、積極的に提言していくことが大切である。

「市民と公民館をつなぐパイプ役」「市民の意見を公民館運営に反映させる」役割を担っている。

そのためには、運営審議委員が自身の役割を認識し、広く情報を収集し、自己研鑽に励むことが大切である。

公民館運営審議委員　高橋　雅子